

## みやぎ祭典へ最後のレッスン

11月16日

□ 11月16日（日）の定例レッスンは、宮城祭典へむけて最後の仕上げのレッスンでした。奥村さんの体操の後、吉田亜矢子先生にバトンタッチ、自然体発声法の訓練を30分受けた後、15分ずつ、コンクール曲である「降りつむ」と「街を返せ」のレッスンを受けました。今回は、吉田亜矢子先生の両曲に対する解釈、演奏法、思い入れも含めて、今まで歌いこんできた曲想・演奏法とはかなり異なる指導を受けました。直前の急な変更にも戸惑う団員もいたようですが、本番では本並先生は、吉田亜矢子先生流に降られるのか、あるいは、いままで1年半をかけて仕上げてきた「本並トーン」で振られるのか。この日やむを得ず欠席した主要メンバーも数人いたので、本番で果たして一致した演奏ができるのかどうか、誠に不安を抱えた結末とはなりました。



□ IN広島の時、「天の火」の歌い方を直前で変え、曲の前半で音を抑えてうたいましたが、消化しきれず入賞を逃しました。今回の「失いつくしたものの上に」からのユニゾンで我慢して、音を抑えて内面的に歌うように変更、そのために「ふりつむ、ふりつむ、ふりつむ」

の最後の「ふりつむ」の rit と、ユニゾンにはいる前の「溜め」をやめて、intempo に変更し、ユニゾン部分を、感情を内に抑えて、我慢して mp で歌う（内面的に歌う）指導は、今までの曲想とはかなりの変化であり、消化不良で音量だけを抑えると平板な演奏になり、IN広島の「天の火」の「二の舞」になるのでは、という声も聴かれました。

□ 続いて本並先生の指揮で、吉田亜矢子先生流の「降りつむ」と「街を返せ」。吉田先生から曲の途中を大声で遮って指揮の仕方も含めてダメ出しが出ていましたが、さて・・・？本並先生は、昂だけでなく他の多くの合唱団を含めて、50年余の実績のある大指揮者と団員は仰いで、共に「本並トーン」を追い求めてきた筈なのですが・・・。

□ その後、本並先生の指揮で、「大音楽会」の曲、「スクラム広げて」、「こころひとつに」、「いのち」と「私の好きなこの街」を、終わりに「降りつむ」と「街を返せ」をレッスンしました。今日のピアノは静さん。参加は、全35名でした。

□ レッスン後「興隆園」に場所を移して、亜矢子先生、静さんも参加して、有志で交流会を持ちました。亜矢子先生の「音楽と亜矢子先生の人生」の話は傾聴に値いし、亜矢子先生の音楽と人生に向かう真摯な姿勢は、皆さんの胸を打ちました。

